

9月定例会を振り返って

会派の意見

新こうち未来

本会議場の国旗・市旗ついに掲揚へ 追手筋のギャンブル施設建設には反対

これまでも議場に国旗が掲げられていないことは異常事態だと主張し続けてきたが、9月定例会において掲揚の決議案が賛成多数で可決。日本国家の繁栄を目指すことに政治の意義はあり、日本人が誇りを持つことが求められている今、本市議会議場に国旗・市旗を掲げることは自然なことである。未来を担う子どもたちへ前向きなメッセージになったと思う。次に、追手筋へのギャンブル施設建設の件は極めて唐突だった。しかし、今回提出された陳情が否決された場合、建設が濃厚となる可能性がある以上、我々は何としても阻止しなければならぬという判断で一致。なぜならば、追手筋は市民県民の思いの詰まった場所であり、これ以上風紀を

乱してはならないからだ。わが会派の主張どおり陳情は賛成多数で可決。市議会の判断は高知市の未来を守るものとなった。

個人質問では戸田二郎議員、福島明議員、川村貞夫議員、上田貢太郎議員、土居ひさし議員が登壇した。

新風クラブ

清水おさむ議員が行政改革「不要会議の見直し」をたずねた。

市役所業務の合理化・効率化の観点から庁内会議の実態と見直しの必要性を迫及するとともに、新たな行政改革実施計画に取り入れるよう要請。執行部からは「新総合計画の下で南海地震対策やコミュニティ再構築など、今後も横断的な組織は必要だが、実態は全体104組織の26%、27組織が休眠状態となっていることから、既に役割を終えたものや形骸化した組織の調査、見直しを現在進めている」との回答を得た。

平田文彦議員が南海地震対策と不登校問題をたずねた。

南海トラフ巨大地震による新たな被害想定に基づき、早急に津波避難タワー等の建設に取り組みべきと指摘。執行部からは「種崎地区を含め本市沿岸部には津波避難困難区域が存在しており、今秋をめどに地域の方と具体的な協議に入りたい」との前向きな回答を得た。また不登校問題への認識につ

いて教育長は「学力向上と同様に重要な問題であり、支援の充実と予防的な取り組みをさらに進めてまいりたい」と答弁した。

市民クラブ

最後のセーフティネット

長尾和明議員の新エネルギービジョンの質問に、執行部は県と連携し事業者の支援策を進めることや、公共施設の有効活用等の観点から太陽光発電の導入について検討するなど、新エネルギーの積極利用に努めたいと答弁。保育士不足対策は、厚労省が就職支援研修を実施し成果が上がっているとのこと、本市も支援していきたいと答弁を得た。

竹内千賀子議員は、生活保護政策は、健康で文化的な最低限の生活ができることとする、憲法で保障する最後のセーフティネットとしての位置付けを確認。

孤立死対策については、地域福祉計画と社会福祉協議会との連携を検討していると答弁を得た。

田鍋剛議員の塩水湧き水の質問に、市長は、機が熟せば直接話し合いをしたいと表明。津波避難経路で橋梁を通る公立保育所が2園、また学校施設外を避難場所とする15校のうち5校が橋梁を通る予定であるため、耐震化については関係部局と連携して取り組むと答弁を得た。指定管理者制度は、公共調達基本条例も適用し、外部評価制度の導入も考えると答弁を得た。

日本共産党

3・11前の「総合計画」、新庁舎・都市整備を見直し、防災、暮らし優先の市政運営を!

学校・保育所の耐震化、避難タワー設置の遅れの一方で、新庁舎建設や旭区画整理の大型事業は住民の同意が不十分でも進める市長の強引な姿勢が明らかに。全国最低レベルの学校の耐震化では、文部科学大臣から平成27年度までに国の財政支援で耐震化を完了するよう要請があり、これに基づく促進決議を提案するも他会派全てが反対し否決。国旗掲揚、領土問題では危険な右傾化の流れに対し、平和と民主主義を守る立場で質疑と討論を行い、怒号のやじには一喝、対決。新エネルギービジョン策定では「原発ゼロ」を目指すことを求め明記へ。また、自然エネルギー普及のための制度創設を求め、市独自の支援策を検討するとの答弁。教育ではいじめ問題で教員体制の強化、チャレンジ塾は東部等で5カ所新設する方向で前進。場外舟券売り場設置反対の陳情に賛成。

公明党

公明党は、南海トラフ巨大地震の新被害想定を踏まえた防災対策や市長の政治姿勢・教育行政等について質問を行いました。高木妙議員は「放課後児童クラブ」の時間延長を求め、教育

長は「18時までの延長に向けて取り組んでおり、来年4月実施を目指している」と答えました。寺内憲資議員は国内外で求められている民主主義の在り方について質問し、市長が民主主義をどのように捉え、市政に反映しているのかを問いました。

高橋正志議員は防災情報周知に関して質問し、市長は10月の被災地の視察後「沿岸地域での懇談会を予定している」と答えました。

西森美和議員は子宮頸がんの征圧を目指し、がんの見落としがない上、受診期間延長を通して行政コストも軽減できる併用検診の導入を強く訴えました。

みどりの会

近森議員が進めてきたまちなかユーモア美術館が開館します。高知の観光スタイルを拠点観光型から点在型高品質観光に変え、まち歩きする観光客を生み出し、ユーモア美術品と高品質な食、土佐酒そしてモーニング文化を紹介するマップが完成します。

